

リハビリテーション不妊治療の実施

株式会社メディカルジャパン

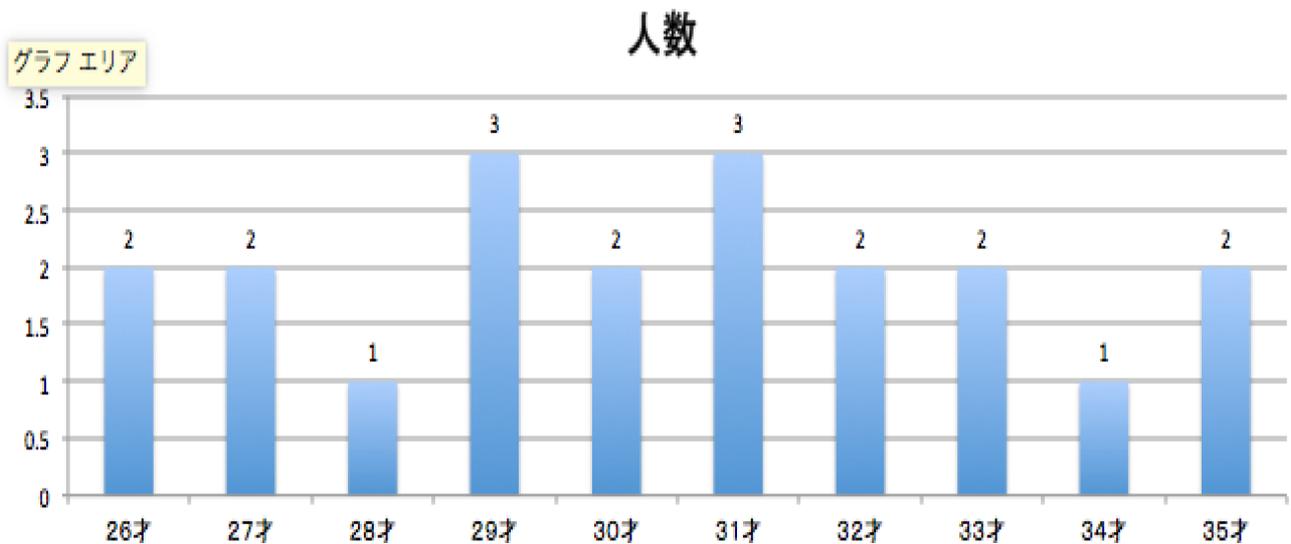
前田 智世  
大久保 聡子  
熊谷 里奈  
片井 征希

弊社に通院されている、不妊治療中の女性患者さんを、バイタル（血圧・呼吸数・脈拍・SPO2）値を、治療前と治療後に計測を行なった。

本研究では、かつてないエビデンスレベルを、考慮した不妊鍼灸を《リハビリテーション不妊治療》と位置付けた。動機としては、心臓リハビリテーションにおける原理の応用を考えた。狭心症患者さんは、心筋への酸素供給度が少なくなると、虚血発作を起こす。そのためリスク管理に《ダブルプロダクト値》をコントロールする。【心拍数 × 収縮期血圧 = ダブルプロダクト】DPの数値は、心筋の酸素消費量と相関関係があるとされており、狭心症患者さんの運動限界値の値を記入しておきます。すなわち数値が高いほど活動範囲は大きくなる。

研究の必要性として、体質を改善するためには、鍼灸やマッサージのみでは限界があると考え、内呼吸を強くする必要があると考えた。また評価として記録することにより、成果をあげる精度を高くできると考えた。

本研究の対象は、20代～40代才までの女性20人に行い、測定にはテルモエレマーノ血圧計、ニッセイのパルスFITを使用し、室温は26度、治療前仰臥位にて5分経過後、治療終了後5分経過時の2回のタイミングで午前10時から午後16時の間で実施した。以下が被験者の人数である。



平均年齢30.4才、上記を（26才から30才）と（31才から35才）までの二群分けて、有意差を測定する。AグループのBMI平均26.1 BグループはBMI平均28.3である。

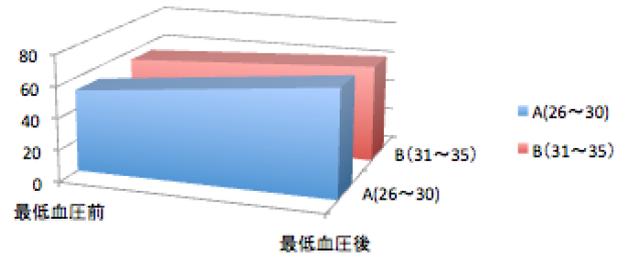


（31才から35才）と SPB と BPM の平均値をそれぞれ

グラフ化した。

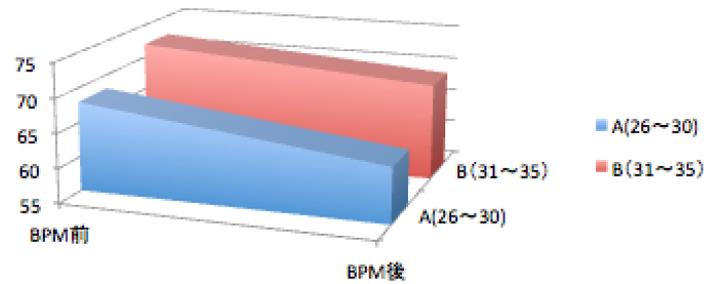
### SPB の変化

グループ	SBP 治療前	SBP 治療後
A(26～30)	52	68
B(31～35)	54	62



### BPM の変化

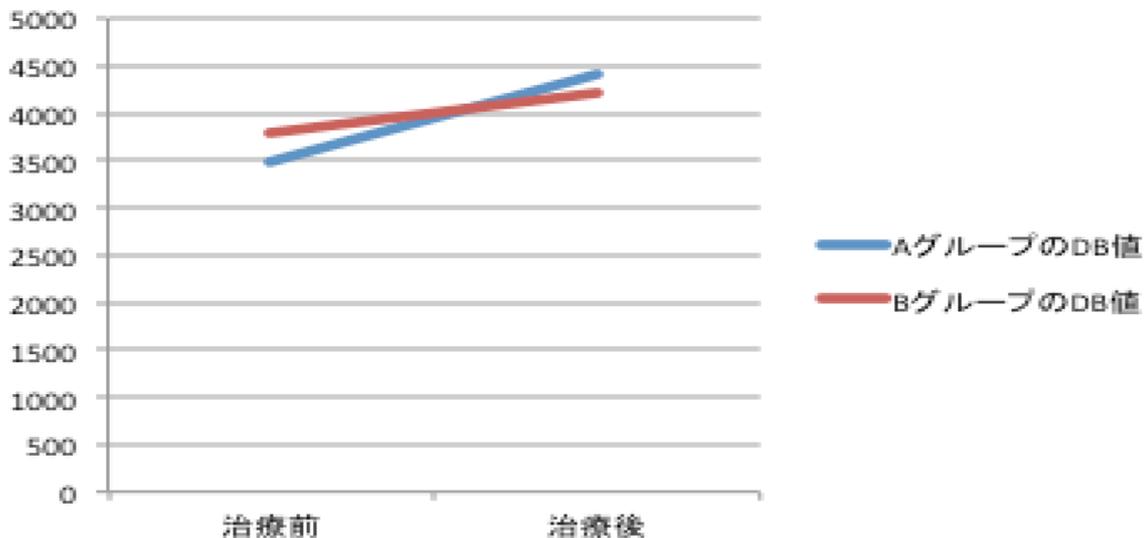
グループ	BPM 前	BPM 後
A(26～30)	67	65
B(31～35)	70	68



A グループ・B グループともに、SBP 向上と BPM 低下が見られた。上記をもとに A グループ、B グループの、DB 値を比較する。

### DB 値の変化

	治療前	治療後
A グループの DB 値	3484	4420
B グループの DB 値	3780	4216

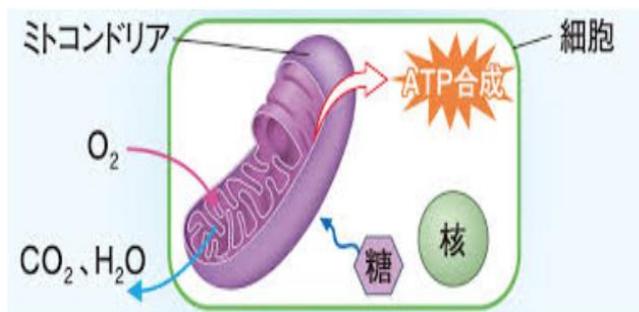
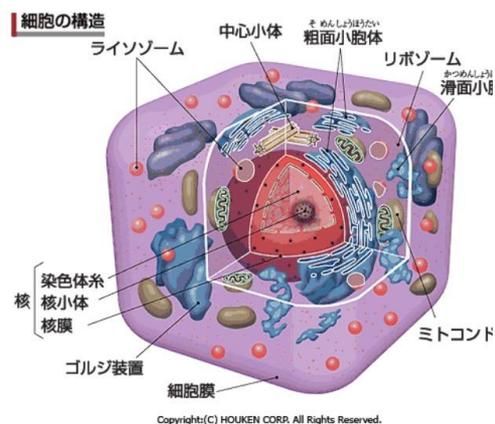


A グループ・B グループともに DB 値の向上が見られた、特に A の変化が大きく出ている。安静時になっ

てすぐの筋血流などが関係していると考えた。結果から推測できることは、鍼灸マッサージの治療後、一回  
 拍出量は増加し、静脈環流量も相関している。さらに今回はデータには残していないが、呼吸が深くなり  
 SpO2 値も向上した患者さんが多かった。体内の内呼吸・外呼吸が治療前より多く行われていることが理解  
 できる。すなわち細胞中のミトコンドリアへ多くの酸素が運ばれている状態が考えられる。特に SBP が上  
 昇するメリットは、代謝の低い女性には多きものと思われる。

## 真核細胞

真核細胞とはDNAが核膜に包まれており、細胞器官を持つ細胞である。真核細胞は核と細胞質に別することができる。また、動物細胞と植物細胞は多少の違いがある。



不妊領域において、鍼灸マッサージの効果効能を、客観的に把握するためには、バイタルの管理が重要で  
 一番エビデンスレベルが高いと考える。人は生命活動を常に営んでいるさいに、3つの大きな歯車があるとい  
 われている。以下が【ワッサーマンの歯車】という理論である。

## ワッサーマンの歯車

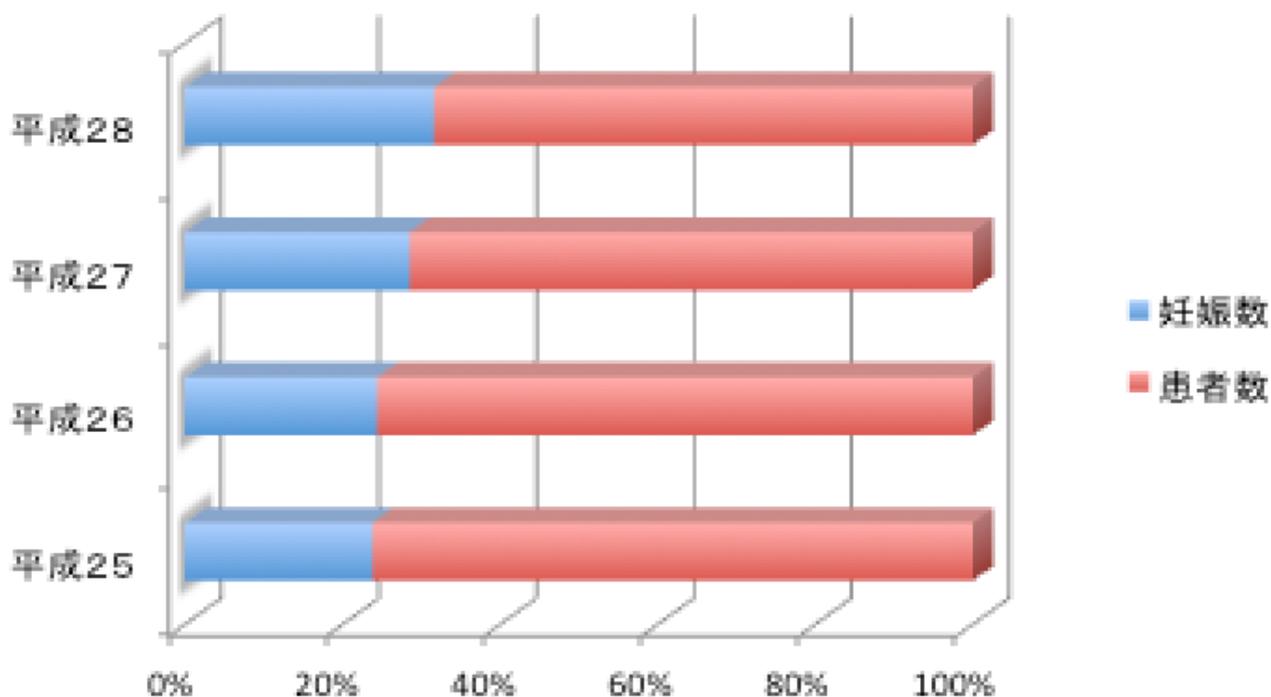


1 肺ポンプ 2 新ポンプ 3 筋ポンプであり、その3つのポンプをうまく循環させるかにより、基礎

代謝は必ず変化する。アプローチは多数あるが本質を理解して、鍼灸マッサージもしくは患者さんへのホームプログラムを作成することにより、多くの悩める方の力になれると確信する。

弊社ではリハビリテーション不妊治療を取り入れてから、患者さんの治療結果が格段に向上してきている。

	平成25	平成26	平成27	平成28
妊娠数	25	30	45	51
患者数	80	93	113	110



必ず人は動くたびに酸素を必要とします。もちろん細胞の再生にも一緒であります。健康の要である、栄養・休養・運動のバランスは、何を指標にするのでしょうか。

バイタルであることは周知であると思います。

では健康に導く鍼灸マッサージだからこそ、しっかりバイタル管理を行い、正しい知識の元で行えば、個人的な問題点も明確になり、それに対する的確な方法論が提供可能です。経験や知恵だけに頼ることなく、エビデンスレベルに基づいた鍼灸マッサージだからこそ、結果患者さんを笑顔にすることが可能なのです。

弊社では高精度体組成計や自律神経診断機や末梢血流診断機となどもあるために、今後のこの研究を様々方面から追求したいと考えている。

参考文献：基礎運動学 中村隆一 他  
運動療法学 市橋則明 他